

# 舞鶴市議会 活動報告

- 京丹後市議会主催議員研修会参加報告  
(令和5年2月16日開催)

# 京丹後市議会主催 議員研修会 実施日：令和5年2月16日

## 【研修の目的】

大きな地域課題である人口減少の解決のため人口増加計画の手法や先進事例を学ぶ

## 【研修場所】

アグリセンター大宮（京丹後市）

## 【研修会の内容】

- 1 講演（演題：持続可能な地域社会を目指して～診断と合意形成の進め方）
- 2 質疑応答

## 【講師】

一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山浩氏

## 【報告書作成】

仲井玲子（会派に所属しない議員）



## 【講演の内容】

- 東京一極集中の限界を迎え、田園回帰の機運が高まっているが、それぞれの地方において人口の社会増を実現するためには、まずは地域の現状把握、現状分析、未来予測を「見える化」し、診断が必要である。
- 地方の持続可能な未来の形・循環型社会となるには30年かかると予想され、30年計画作成のための新しい地域運営と先進事例の紹介。

## 京丹後市議会主催 議員研修会 実施日：令和5年2月16日

## 【講演の内容（つづき）】

- 年齢層別人口の増減、将来の人口予測を自治体全体から地区別に診断を行うと地区ごとに大きな違いがあることから、それぞれの地区の課題と成果を踏まえた定住戦略を行う。
- 地方都市では中心地、まちなぎわいの場をずらし続ける傾向があり、昔の商店街は廃れ、域外資本の大型店などで買い物をする結果、地域のお金が域外へ流出している。毎年、外から買う量を100から99に減らし、地域内で原材料から作ることで地域からの流出の1%を取り戻せば、所得の1%取り戻しが見えてくる。
- 2050年までに循環型社会へ転換するには、地域の力を結集するため横断型の新しい地域運営が必要であり、住民、市の職員、議員が診断データをもとに同じ方向を目指すことが肝心である。

## 【各議員の所感】

- ◇ 持続可能な地域社会に向けては、地域の課題を正確に把握することに加え、地域コミュニティや、地域内の経済循環などが重要であることをあらためて認識し、住民が主体となったまちづくりに向け、議会・議員としても尽力していく必要があるとの所感が多くあった。



議員研修会の報告書は、市議会のホームページに掲載しています。

